

令和7年度 第1回大牟田市健康福祉推進会議摘録

開催日時：令和8年1月26日（月）13:30～15:30

会場：大牟田市役所北別館 4階 第1会議室

出席委員：村山委員（会長）、堺委員、藤原委員、西坂委員、近藤委員、
内田勉委員、泉田委員、橋口委員、奥園委員、三浦委員、
永江委員、小堺委員、北嶋委員、石田委員、嶋田委員、
山中委員、叶委員

欠席委員：鴨打委員、松尾委員、内田伸哉委員、古賀委員、井田委員、坂井委員、
奥園委員、跡部委員

事務局：保健福祉部副部長 龍、福祉支援室長 吉澤、子ども未来室長 木村
福祉課長 田中、福祉課総合相談担当課長 坂口、
健康づくり課長 楠、福祉課障害福祉担当課長 岡村、
福祉課介護保険担当課長 谷川、
福祉課主査 上村、牛島、草村、平田、藤田、本田、村上、吉田
健康づくり課主査 宿利、谷川
福祉課 甲斐田

概要：以下のとおり

1. 会議

（1）大牟田市健康福祉総合計画進捗管理について

…会議資料「計画進捗状況シート」に基づき、各委員へ事前に説明を行っており、その際に出された意見等を踏まえて、基本目標ごとに事務局より説明を行うとともに意見交換を行った。

<意見交換>

・基本目標1「一人ひとりが尊重され、安心して相談できる社会」

○委員

新規事業としての言語聴覚士による相談と、教育委員会の早期教育相談の充実を継続してほしい。

包括的な自殺予防体制の構築については、小中高生の保護者に対して（ゲートキーパー）研修をされているとの事であるが、ぜひ継続していただきたい。ちなみに、この研修の案内方法は何か教えてほしい。

また、認知症本人交流会の場の増設方針を教えてほしい。

○事務局

自殺予防研修は広報おおむたへの掲載と愛情ネットで募集している。

認知症本人交流会は現在3拠点、今年度中にあと1拠点を開設予定である。

○委員

現在、若者の自殺が非常に増えているという現状がある。小中高校生を対象とした自殺予防対策をさらに推進してほしい。保健所とも連携を強化できれば。

○委員

認知症カフェとゲートキーパーは、別枠なのか。

○事務局

認知症カフェは認知症の不安がある方・職員が集う場。

ゲートキーパー研修は、身近な方の自殺の危険性・サインに気付くための研修であり、多くの方に受けていただくことで早期発見及び支援機関につないでいただくこと等で、自殺の防止につながるものである。

○委員

3歳児健診については、検診時に分からず、小学校に入ってから顕著になる場合もある。3歳児健診の後、小学校入学後も学校教育の中で見守れる体制を強化してほしい。

○事務局

教育委員会へ伝える。

○議長

重点項目、重点取り組み2で実績が6.6ポイント増しているということであるが、この指標の「悩んだり困ったときに助けを求めることができない人・助けを求める人がいない人」というアンケートについて、人が助けを求める相手として専門職を想定しているのか。それとも民生委員、地域、近隣の方、知り合いの方とか、そういうことも含めているのか。

○事務局

専門職だけではなく、身近なところで相談できる方親族等も含めている。

○議長

(市は)相談機関の充実や相談受けてからのいろいろな分野との連携に力を入れているが、この指標だと、もう少し前段階の、相談に繋がってないというところが問題になるのではないか。相談窓口はあるが、総合相談というところまで辿りつかないところが課題なのかもしれないし、総合相談窓口は本庁舎にあったとしても、地域に(相談しやすい場所が)ある必要があるかもしれない。そこが気になった。

○委員

議長と同意見である。(悩んだり困ったときに助けを求める人がいるかどうかは)人間関係の話になる。行政側がいくら窓口を整備しても、このポイントは上がらないんじゃないか。指標の質問項目の検討が必要なのでは。

○議長

次回の計画に向けて、検討をお願いしたい。

・基本目標2「健康的で、住み慣れた地域で暮らし続けられる社会」

○委員

健康づくり課とは二人三脚で活動させていただいている。栄養バランスを配慮した食生活の普及に注力しており、学校給食週間の活動、レシピコンテスト、優秀賞の提供など食育を市民へ広げたい。

○委員

給食のレシピコンテストに関しては、驚くほど立派な料理を子どもたちが考え応募してくれている。食育の取り組みを、今後も教育委員会と連携して継続していきたい。

・基本目標3「誰もが多様なきっかけや、つながりで参加できる社会」

○議長

就労支援ネットワーク会議について、障害者だけでなく高齢者・就労が難しい方々の就労支援を横断的に推進する取り組みは画期的だと思う。(進捗管理の実績では)事例の共有や意見交換を行ったと書いてあるが、具体的にどのような意見がここで議論されているのか、もし色々なアイデアが出ているのであれば、共有してほしい。

○事務局

就労支援ネットワーク会議では、就労に関わる関係機関が集まって、まずは情報共有をしている。今年度は、企業と連携して高齢者の就労支援を後押しするような取り組みの検討を進めている。

○議長

先ほどから実績指標にこだわるようであるが、この基本目標では、障害者の就労一般就労への移行人数を指標にされているが、本来の取り組みの主旨からすると、もっと幅広く、分野横断的に就労支援をやっていくことを評価できるような指標があればいいと思う。次期計画で検討できれば。

○委員

就労支援ネットワーク会議についてであるが、若い男性で、大学卒業で就職はしたが、自分の気持ちをうまく伝えられず、コミュニケーション不足により上司に叱責されてしまい、現在は相談支援事業で軽作業をしているという例がある。このようなネットワークがあるのであれば、若者の生活や能力を活かせる支援の仕方がないだろうかと思う。

○事務局

障害福祉の分野で申し上げますと、一般就労するための伴走支援や、就労された後、しばらくの間企業と本人との困り事ことを橋渡ししていただくような定着支援が、障害福祉のサービスにはある。

今後、就労支援ネットワークの中でも、そのような事例を紹介していけるような形で取り組みたい。

○委員

障害のあるなしに関わらず、生きづらさを感じている方はたくさんいらっしゃる。伴走が必要であり、時間がかかる。市の就労支援ネットワークは幅が広いので、もうすこし細分化した方が話がまとまりやすいのではないかと。

○議長

広すぎて具体的なケースが繋がりにくいという意見だった。一方で、広いから良いという面もあるだろう。今後も検討を重ねていければ。

○委員

障害児通所支援について、利用者の増加が堅調で療育が必要な児童が増えていく傾向があるとの事であるが、どの程度増えているのか。また、今後の受け皿づくりに問題はないのか教えていただきたい。

○事務局

児童発達支援は現在 98 名であり、5 年ほどで倍ぐらいに増加している。

放課後等デイサービスも同様に増加している。今後も利用が増える見込み。

児童発達支援に関しては理解が進み、皆さんに行き渡ったのではないかと考えている。

○委員

(自分も現場に携わっているが) 発達障害への理解が社会や保護者等にも進んだことで、利用児童が増えたと思う。事業所も増え利用者も増えたが、スタッフはなかなか追いついていない現状。そのような中で、どういうふうに本人たちの困り感を支援しているかが課題。特に、特性の強い児童については、今後も継続して(福祉サービスを受けられるということが)必要であり、それが

家族の支援にも繋がる。

・基本目標4「新たな担い手が生まれる持続可能な社会」

○委員

防災訓練・防災研修について、子どもたちが災害に備える訓練を受け、地域を守るとの発表があった。今後も訓練を継続して実施してほしい。

○委員

保健所では、難病患者の在宅支援を行い、災害時の避難計画の作成にも取り組んでいる。地域に在宅生活者がいる実態を把握するのは難しく、関係機関と協力して具体的な計画づくりを進めたい。

また、計画を作ったものの、実際に避難をしてみないと何に困るのが分からないこともある。今後とも関係機関と一緒に連携できればと思う。

○委員

災害時要配慮者支援事業の名簿更新が進んでいない現状がある。自分の棲んでいる校区では、毎年、社会福祉協議会が先頭にたって民生委員・福祉委員・公民館長と協力し、支え合いマップを作成している。このようなことを、他の校区でも取り組んではどうかと考えているが、なかなか進まない。財源確保も含め、実践的なモデルづくりを進めていければ。

○委員

今後5年・10年を見据え、団塊の世代が後期高齢者となる中で、地域活動の担い手が減少する懸念がある。介護分野の人材不足も深刻。地域活動実践者がどんどん減っていくという実態を、もう少し計画に盛り込んでもらいたい。

○議長

地域担い手をどう育成・発掘するか、現行計画でも大きなテーマではあったものの、次期計画策定では、さらに注目する必要がある。新たな政策・取り組みの検討も必要かもしれない。

(2) 大牟田市健康福祉総合計画の策定について

…事務局より説明を行った。

15:25まで

2. その他

(1) 次回以降の会議日程について

…事務局より今後のスケジュール及び今後の事業について事務連絡を行った。15:30まで

(以上)